



# キリスト教と会津 ～祈りの光と影～

Aizu and Christianity: The Light and Shadow of Faith



会津にはおおらかな  
仏都の祈りの影に、  
せんぶく 潜伏キリシタンの  
隠れた歴史があります。  
会津各地に残るキリシタンの  
こんせき 痕跡を訪ねます。

In the shadow of Aizu's serene Buddhist tradition, there lies an undiscovered history of Hidden Christians. This report examines traces of Christianity that can be found in various places around Aizu.

**キリシタン巡りの小さな旅**  
【行程】  
①市役所→②鶴ヶ城(鐘つき堂石垣)  
④建福寺(松倉重頼主従の墓)→⑤生秀行廟→⑦天子神社→⑧キリシタン  
↓⑩蒲生氏郷の墓(興徳寺)→市役所

- ①市役所→②鶴ヶ城(鐘つき堂石垣)→③宝積寺(キリシタン地蔵)→  
④建福寺(松倉重頼主従の墓)→⑤泰雲寺(花クルスの石灯籠)→⑥蒲生秀行廟→⑦天子神社→⑧カリシタン塚→⑨蒲生忠郷の墓(高巖寺)→  
⑩蒲生氏郷の墓(興徳寺)→市役所



## キリストン関連地図（会津広域）



【参考文献】

『会津若松市史4・城下町の誕生』・『猪苗代町史～歴史編』・『河東町史』・『下郷町史』・『会津のキリシタン』山内強著・『会津切支丹物語』小島一男著(会津史談会)・『郷土の姿』山中喜巳男著(自費出版)・『会津のキリシタン』アーミン・クレーラ、エヴェリン・クレーラ著・『日本関係イエズス会原文書(京都外国语大学附属図書館所蔵)』松田毅一、他編(同朋舎)・『東北のキリシタン殉教地をゆく』高木一雄著(聖母文庫)

| 時代区分        | 安土桃山時代      | 江戸時代        |
|-------------|-------------|-------------|
| 支配下年代       | 一五八九年       | 一五九〇年～一五九八年 |
| 会津領主        | 伊達政宗        | 蒲生氏郷秀行(前期)  |
|             | 一五九八年～一六〇〇年 | 一六〇一年～一六二七年 |
|             |             | 一六二七年～一六四三年 |
|             |             | 一六四三年～一六七二年 |
| 蒲生秀行・忠郷(後期) | 蒲生秀行・忠郷(後期) | 加藤嘉明・明成     |
| 上杉景勝        | 上杉景勝        | 保科正之        |



蒲生氏郷画像（複製）市立会津図書館蔵

会津はかつて京都、奈良に次ぐ「仏都」であったといわれ、「会津の三十三観音めぐり」巡礼を通して観た往時の会津の文化」が、2016（平成28）年に日本遺産に認定されました。その一方、1590（天正18）年に戦国武将、蒲生氏郷によつて会津にもたらされたのがキリスト教で、三十三観音めぐりという庶民のおおらかな信仰が「光の祈り」とすれば、迫害と殉教のキリストン史は「影の祈り」と言えるかもしれません。この報告書では会津各地で見られる影の祈りの痕跡を訪ねます。

In the past, Aizu was recognized alongside religious centers like Kyoto and Nara as a "Buddhist Capital," due in part to the Aizu 33 Kannon Pilgrimage, a historic pilgrimage which was designated as a Japanese cultural heritage asset in 2016. Around the same time as the tour's initial rise to popularity, the warlord Gamo Ujisato brought Christianity to Aizu in 1590. The leisurely 33 Kannon Pilgrimage and other Buddhist practices claimed the spotlight among common people, while a history of persecution and martyrdom kept Christianity in the shadows. This report examines remnants of Aizu's "shadow faith," which can be found scattered across the Aizu region.

# 会津におけるキリストン文化の芽生え

## 海外交易と信仰の広がり

1549（天文18）年にポルトガル人フランシスコ・ザビエルによって日本にもたらされたキリスト教はまたたく間に九州、西日本から中央に広まっています。その教えが東北地方に入るのも約40年後の1590（天正18）年のことです。普及に貢献したのことで、その教えが東北地方に入るのも約40年後の1590（天正18）年のことです。普及に貢献したのことで、多くの大名たちと同じよう4回にわたって使節を派遣したという伝説も残っています。入信の動機は、多くの大名たちと同じよう、海外との交易による富の獲得あるいは西洋文化の導入などのねらいがあつたと思われますが、氏族の信仰はしだいに強くなっています。またローマ法王に4回にわたって使節を派遣したという伝説も残っています。入信の動機は、多くの大名たちと同じよう、海外との交易による富の獲得あるいは西洋文化の導入などのねらいがあつたと思われますが、氏族の信仰はしだいに強くなっています。またローマ法王に4回にわたって使節を派遣したといわれています。

悲しみのマリア像(仙台市博物館蔵)

2018（平成30）年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリスト教の歴史と文化」が世界文化遺産に登録されました。『日本史』を書いたルイス・ブロイスの当時の記録によると、高山右近や氏郷のほかに小西行長、黒田官兵衛(孝高)ら秀吉配下の名だたる武将がござつて入信しています。当時、伊勢・松坂の領主だった氏郷は家臣たちに自分がキリスト教であること、領内に教えを広めたいことを明らかにしたといいます。またローマ法王に4回にわたって使節を派遣したといわれています。入信の動機は、多くの大名たちと同じよう、海外との交易による富の獲得あるいは西洋文化の導入などのねらいがあつたと思われますが、氏族の信仰はしだいに強くなっています。またローマ法王に4回にわたって使節を派遣したといわれています。

# キリストン文化の広がり

蒲生氏郷時代～加藤明成時代

## キリスト教 影の祈りへ：

会津の領主となつた氏郷は、黒川の地名を若松に変え、7層の天守閣を築くとともに、城下町を整備しました。中心市街地に今に残る互い違いの十字路は氏郷時代の遺構です。漆器や酒造、会津木綿、赤べこに代表される張り子玩具、といった伝統工芸品などの産業振興にも力を入れ、現在も伝統産業として息づいています。

### 会津に広まるキリスト教

キリスト大名の顔を持つ氏郷のキリスト教への信仰心がいかに深かつたかを物語る話が伝わっています。1587（天正15）年、秀吉は突然伴天連追放令を出しました。高山右近に信仰をやめるように命じましたが、右近はこれを拒絶しました。氏郷は右近の一途な良心に感動

基督教徒としての心を認め、秀吉の命を守ることを誓つたといいます。会津領主になつた氏郷のもとでジョアン・ダ・カストロなど重臣たちも敬虔なキリストになりました。その一人、氏郷の妹を妻にした小倉作左衛門成など重臣たちも敬虔なキリストになりました。その一人、氏郷は洗礼名をパウロと称し、南会津を治めました。蒲生家の重臣の人で、氏郷の孫・忠郷時代に猪苗代城代を務めた岡越後（左内）もまた熱心な信者でした。忠郷時代にはかなりの数のキリスト教徒がいたとも伝えられています。会津におけるキリスト文化を彷彿とさせる代表的なものは、かつて



## 世界文化遺産の長崎と会津

2018（平成30）年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリスト教の歴史と文化」が世界文化遺産に登録されました。

かに小西行長、黒田官兵衛(孝高)ら秀吉配下の名だたる武将がござつて入信しています。当時、伊勢・松坂の領主だった氏郷は家臣たちに自分がキリスト教であること、領内に教えを広めたいことを明らかにしたといいます。またローマ法王に4回にわたって使節を派遣したといわれています。入信の動機は、多くの大名たちと同じよう、海外との交易による富の獲得あるいは西洋文化の導入などのねらいがあつたと思われますが、氏族の信仰はしだいに強くなっています。またローマ法王に4回にわたって使節を派遣したといわれています。

かに小西行長、黒田官兵衛(孝高)ら秀吉配下の名だたる武将がござつて入信しています。当時、伊勢・松坂の領主だった氏郷は家臣たちに自分がキリスト教であること、領内に教えを広めたいことを明らかにしたといいます。またローマ法王に4回にわたって使節を派遣したといわれています。入信の動機は、多くの大名たちと同じよう、海外との交易による富の獲得あるいは西洋文化の導入などのねらいがあつたと思われますが、氏族の信仰はしだいに強くなっています。またローマ法王に4回に

# 激しさを増す弾圧

## 殉教者が相次ぐ



「天子神社」は町北町上荒久田にあり、鳥居の脇に説明板が立っている

## 禁教の中の温情

### 保科正之時代

#### 命を尊ぶ正之公

保科正之が1643(寛永20)年に最上(山形)から会津に入封した際、一緒についてきた家老大田小太夫実次は熱心なキリスト教徒でした。命を尊び、キリスト教にも比較的寛容だった正之は大目に見ていました。とはいえて幕府の手前、名を谷野又右衛門と改名させ、太田を帰農させたそうです。帰農した谷野は上荒久田で青芋(からむし)シタンでした。命を尊び、キリスト教にも比較的寛容だった正之は大目に見ていました。とはいえて幕府の手前、名を谷野又右衛門と改名させ、太田を帰農させたそうです。帰農した谷野は上荒久田で青芋(からむし)



谷野家に伝わるキリスト教遺品の旗  
の栽培を始めましたが、土地が合わなかつたのか、別の場所に元家臣ともども移住しました。帰農した際、表向きは棄教したとも考えられます。会津若松市町北町上荒久田の谷野家敷跡に「天子神社」が建っています。

島原・天草の乱の後、3代將軍徳川家光はキリスト教弾圧を強化しました。幕政に深く関わった家光の異母弟である正之はキリスト教を厳しく取り締まる役目を担わなければならぬ立場になりました。キリスト教には寛容な側面もあつたのか、処罰よりもキリスト教にまつわる、会津と長崎との奇妙な縁といえるかも知れません。

「刑は12月17日から20日にかけて、薬師堂河原の刑場で行われた。丹波は18日に執行、南無阿弥陀仏の六字の名号をつけた白衣を着せられて逆さ十字にかけ

り、加藤明成が領主になるとキリスト教に対する弾圧は激しくなり、殉教者が相次ぎました。長く暗い時代を迎えたのです。なかでも1635(寛永12)年の大弾圧は痛ましいものでした。会津キリスト教の指導者だった横沢丹波は布教のために南会津町水無に出かけていたところを捕らえられました。丹波家の二重壁に潜んでいた外国人バテレンなど60余名のキリスト教徒と一緒に捕まっています。なかには女子、子供も混じっていたそうです。

「刑は12月17日から20日にかけて、薬師堂河原の刑場で行われた。丹波は18日に執行、南無阿弥陀仏の六字の名号をつけた白衣を着せられて逆さ十字にかけ

り、加藤明成が領主になるとキリスト教に対する弾圧は激しくなり、殉教者が相次ぎました。長く暗い時代を迎えたのです。なかでも1635(寛永12)年の大弾圧は痛ましいものでした。会津キリスト教の指導者だった横沢丹波は布教のために南会津町水無に出かけていたところを捕らえられました。丹波家の二重壁に潜んでいた外国人バテレンなど60余名のキリスト教徒と一緒に捕まっています。なかには女子、子供も混じていたそうです。

蒲生氏郷によつてもたらされたキリスト教は實大な領主に恵まれ、信者は会津全域にまで広まりました。しかし江戸期に入り、加藤明成が領主になるとキリスト教に対する弾圧は激しくなり、殉教者が相次ぎました。長く暗い時代を迎えたのです。なかでも1635(寛永12)年の大弾圧は痛ましいものでした。会津キリスト教の指導者だった横沢丹波は布教のために南会津町水無に出かけていたところを捕らえられました。丹波家の二重壁に潜んでいた外国人バテレンなど60余名のキリスト教徒と一緒に捕まっています。なかには女子、子供も混じっていたそうです。

普通の日本人なら2日で絶命するのに、この外人は26日夕刻まで生存し、見物人に強い感銘を与えた。外人の着ていた衣服は戊辰戦争まで城内に残っていたが、戦いのとき焼失してしまった」(『切支丹風土記』)

丹波バテレンのほかに、パウロ柴山長左衛門は火あぶりの刑で、その妻と二人の子供は打ち首によつて刑場の露となりました

かる橋を柳橋、別名「涙橋」ともいいます。罪人が刑場に連行されるときに、この橋が家族との最後の別れになるからです。「キリスト教塚」の南、湯川に架かる橋を柳橋、別名「涙橋」ともいいます。罪人が刑場に連行されるときに、この橋が家族との最後の別れになるからです。



「キリスト教塚」は神指町黒川に架かる涙橋の北、湯川辺りにある

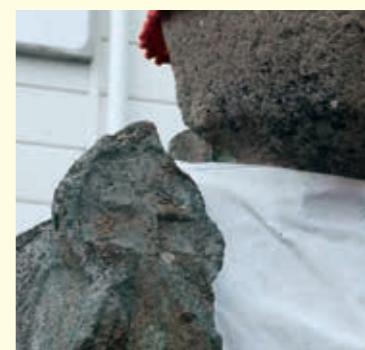


## 会津若松に残るキリスト教伝承

### 宝積寺キリスト教地蔵

(会津若松市花見ヶ丘)

村に近い本田集落のはずれにある真言宗の寺院です。旧下荒井村蓮華寺の末寺にあたり、現在は無住。創建は会津大地震のあった一六一(慶長16)年。堂内に安置されている身丈18cmの子安觀音を何時からマリア観音と称されてきたのかは不明です。厨子に入った光背が舟形雲漆箔仕上げの觀音像にカルス(十字)らしきものは見当たりません。江戸時代に提出された陸奥國転切支丹類族存命帳に「下荒井一人金三郎」といった記述がありますが、あるいは本田のマリア觀音と関連があるのかもしれません。本泉寺は普段は閉じられていますが、8月24日と25日の集落の祭礼の際にご開帳され、拝観することができます。



### 本泉寺のマリア観音

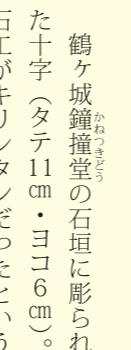
(会津若松市北会津町本泉)



(会津若松市追手町)

### 石垣に彫られた十字

お寺の門柱前に立つ地蔵が手に持つ錫杖の頭に十字のマークがあります。住職の話ではキリスト教の印として伝承されているそうです。



(会津若松市追手町)

### 鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字

た丸十(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという説と石積み工事の際の目印だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという説と石積み工事の際の目印だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



(会津若松市門田町西川)

### 泰雲寺の花カルス石灯籠

鶴ヶ城鐘撞堂の石垣に彫られた十字(タテ11cm・ヨコ6cm)。石工がキリスト教だったという見方もあります。本丸内の旧御二階跡北東の石垣にも同じような十字の彫り跡が見られます。



# 猪苗代は キリストの聖地だつた

## 殉教の地

猪苗代町にキリスト信者が多かったのは、蒲生時代に亀ヶ城主で猪苗代城主を担つた岡越後が敬虔なキリストだつたからともいわれています。越後は城代に着任すると城下を一望する磐梯山麓の見神山に宣教所を建て、宣教師を招いて信者の教育にあたらせました。亀ヶ城の東に布教のための教会を建てました。

1611(慶長16)年10月、イ



キリスト殉教地碑は磐梯山のふもと、  
土津神社近くにある



猪苗代町内中心部にある神学校の跡、天司の宮

スペニアの使節セバスチャン・ビスカイノが東北巡回の途中、会津を訪問し蒲生秀行に接見しています。越後が猪苗代城代を務めている間、猪苗代はキリストの最盛期を迎えますが、1622(元和8)年に息子が病死すると、後を追うように越後も急逝してしまいました。

その後、城代に着任したのは越後の甥ともいわれる岡左衛門佐でしたが、棄教してからは一転してキリスト弾圧に精力を傾けました。岡越後の消息ははつきりとわかつていませんが、土津神社の下

## 【会津キリスト関連略年表】

| 西暦   | 和年号  | 出来事                                     |
|------|------|---|
| 1549 | 天文18 | フランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教伝来                  |
| 1556 | 弘治2  | 蒲生氏郷が近江日野で誕生                            |
| 1582 | 天正10 | 本能寺の変。氏郷、織田信長の遺族を保護                     |
| 1585 | 天正13 | 氏郷、大阪で洗礼を受け「レオ」を名乗る                     |
| 1587 | 天正15 | 豊臣秀吉が禁教令発令。<br>宣教師の追放が主で、庶民の信仰は禁じていない   |
| 1590 | 天正18 | 氏郷が会津の領主となる。<br>これまでに4回のローマ使節派遣との説もある   |
| 1591 | 天正19 | 千利休切腹後、子の少庵を会津に引き取り                     |
| 1592 | 文禄元  | 氏郷、城下町建設に着手。黒川の地名を若松に改める                |
| 1593 | 文禄2  | 氏郷、7層の天守閣を築く                            |
| 1595 | 文禄4  | 氏郷死去、秀行が継ぐ                              |
| 1598 | 慶長3  | 秀行、宇都宮18万石に移封                           |
| 1600 | 慶長5  | 関ヶ原の戦い                                  |
| 1601 | 慶長6  | 秀行、宇都宮から60万石で会津に戻る                      |
| 1609 | 慶長14 | 秀行、岡越後に猪苗代城代を命ずる。                       |
| 1611 | 慶長16 | 保科正之誕生。秀行、会津来訪のセバスチャン・ビスカイノを肉食でもてなす     |
| 1612 | 慶長17 | 秀行が死去し、忠郷が継ぐ・幕府がキリスト禁止令                 |
| 1622 | 元和8  | 岡越後が急逝し、後任に甥とされる岡左衛門佐が猪苗代城代になる          |
| 1626 | 寛永3  | コスマモ林主計が岡左衛門佐により斬首、会津初の殉教者              |
| 1627 | 寛永4  | 蒲生忠郷が死去、加藤嘉明が会津藩主に                      |
| 1631 | 寛永8  | 嘉明の後に明成が継ぐ。キリスト弾圧激しくなる。<br>この頃から檀家制度が確立 |
| 1635 | 寛永12 | 外人宣教師(バテレン)を含む横沢丹波ら60名が薬師堂河原で処刑         |
| 1643 | 寛永20 | 保科正之が山形最上から会津23万石の藩主になる                 |
| 1672 | 寛文12 | キリストの家老太田小太夫、谷野又右衛門として帰農                |

にあるキリスト殉教地碑が岡越後の墓といわれています。



岡越後が城代を務めた亀ヶ城(山内晴也氏提供)

## 天司ケヤキ伝説

猪苗代の市街地に天司の宮と呼ばれる小さなお宮と小さな石像が立っています。このケヤキには伝説があります。昔、このケヤキには大ケヤキの根元に寄り添うように兄弟が立って、一本は猪苗代湖に近い場所に立っていました。事情があつてこのケヤキが切り倒されることになりました。木こりが斧

を振り上げてハツシと打ち込むと、何と切り口から赤い血が流れ出て止まらなかったといいます。不思議な現象は町の中にあるもう一本のケヤキにも起こりました。兄弟ケヤキに斧が打ち込まれたその時、ガタガタと鳴動して止まず人々を驚かせました。鳴動したケヤキの立っていた場所は岡越後が建てた教会のあった場所だといいます。これが天司のケヤキです。

## 奥会津に残る キリストの刻印

奥会津編

### 常楽院のマリア観音

(南会津町福米沢)

額に十字が彫られています。建前上は子安觀音として信仰されていました。常楽院のすぐ近くに明治初期に建てられた教会がありますが、明治以降、会津のキリスト教布教がどこよりも早くかつたのは、会津に内在する芯の強さと反骨心あるいはやさしさといった気風が脈々と流れているからでしょうか。



常楽院の  
マリア観音

### 久保田三十三観音

(柳津町久保田)



マリア観音

### 水無の子安觀音

(南会津町水無)



南会津地方で発見されたイコン

### 栗生沢の手前の墓地にある子安觀音

栗生沢の手前にある水無集落は会津キリストの指導者だった横澤丹波らが捕まつた場所です。この集落の墓地に土の中から発見されたもので、十字の印はないものの、迫害を逃れて土に埋めたのではないかとも想定されます。

七番の如意輪觀音像は錫杖に十字をもつマリア観音といわれています。久保田集落から銀山峠を越えると軽井沢銀山です。鉱山は幕府の目が届かず、鉱夫に隠れキリストが多かつたといわれています。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようなものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようなものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ約70cmで両手に如意輪のようるものを持つています。腹部に5つの穴が十字形に配列されていますが、十字を表現したものとも考えられます。



栗生沢の手前の墓地  
にある子安觀音

栗生沢は村人の多くがキリストだつたといわれています。マリア観音と目される觀音像は高さ